竹下復興大臣臨時記者会見録
（平成27年3月21日（土）15：20～15：23　於）宮城県七ヶ浜町）

２．質疑応答

（問）まず、本日の七ヶ浜の宅地内覧が昨日完了したということで、われわれも見せていただいたんですが、ここをご覧になってどういう感想を持たれましたでしょうか。

（答）非常に順調に進んでいるなと。これで、いよいよ、町長も被災者で、ここに移り住んで来られるそうです。本当にいい所ですね。いろんな所を今、視察したり、いろいろ話を聞いておりますが、これだけ海が見えて、高台で、という所は、そう多くはありません。いい所だなと思いました。

朝、女川町のまちびらきの式典に出席を致しまして、その後、七ヶ浜で渡邊町長といろいろお話をさせていただき、ここも視察させていただいた。町長から、いろいろ情報をいただきまして、即答できる内容もあったんですが、ただ、共通しましたのは、集中復興期間が終わっても、われわれもやるからと、町長も必ずやりますからということでお互いに手を取り合いながら、力を合わせてやっていこうと、やり抜こうということは、まず、まさに共通認識として得ることができたなと、こう思いました。

それから、中学校の新設・移転のことで、相当苦労された話も伺いまして、子どもたちは町の未来そのものだから、どんなに難しかろうと、極端に言えば、どんなに費用がかかろうと、未来に向かってやることっていうのは、われわれの仕事じゃないかと、話をすることができました。

（問）集中復興期間が終わってから、共通した認識で、「われわれもやりますから」というのは大臣おっしゃられて。「われわれもやりますから」と、もう少し言葉を、「われわれもやりますから」とおっしゃったわけですか。

（答）いや、言いましたのは、総理から指示を受けたと。後半の5年間について一固まりの捉え方をしなさいと。一年一年の予算措置じゃなくて、一固まりで捉えなさいと。で、復興のあり方なり、財源なり、きちっとお示しをすることが、被災地が安心して復興に取り組んでいけることであるということを総理からお話になって、それを受けて、われわれは「やります」という話をいたしました。

その上で、いや、もっと正直に言いますと、財源、今ここにありますと、ないんだと。「ないけど、必ず見つけてくるから、それは安心してくれ」と、「見つけるのは私の仕事ですから、復興大臣の仕事と、こう思っていますので、そこは安心してくれということを、町長にはお話をいたしました。

（以　　上）